

## 【青森県教育委員会】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICTの特性を最大限に活用して、誰1人取り残すことなくきめ細かな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、デジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

#### 2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の下、県立学校においても、国庫補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、高速大容量の校内LANや1人1台端末、大型提示装置等の一体的な整備を行い、学校におけるICT環境の充実を図ってきた。

学習用端末については、令和2年度から国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和3年度までで1人1台端末の整備を完了した。

令和2年度に教室への無線LAN整備及び電源キャビネットの整備を実施したほか、当該校内通信ネットワークのためのインターネット回線（各校1Gbpsベストエフォート）を整備し学習用無線LANの運用を開始した。

また、指導者用の情報端末についても「学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業」等を活用し整備を行った。ハード面の整備と共に、ICT機器を活用した授業改善に向けた研修を展開し、学習用ツール等を活用した授業改善が進められた。

ICT環境が整備され、授業等での活用機会が増加したものの、通信量の増大により学習用無線LANの通信環境が不安定で速度が十分に確保されない場面も見られるようになった。また、デジタル教材等のソフト面の整備が伴っていなかったため、児童生徒が主体的に学習に取り組み、個別最適な学びを推進するところまでは至らなかった。しかしながら、ICTを活用した遠隔教育を通じて多様な学習を支援する知見が広がったことは、大きな変革とも考えられる。

そのため、GIGA第2期においては、ローカルブレイクアウト等で授業等での安定的に利用できる通信環境を整備する。加えて、クラウドサービスのデジタル教材等を活用しながら、1人1台端末の持ち帰りをさらに推進し家庭での利活用も含めて、主体的に学習に取り組み、個別最適な学びの充実に向けた機会を創出することが重要である。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末については、公教育の必須ツールとしての役割を踏まえ、計画的な維持・更新に取り組む。さらに、学校の通信環境については、授業等で多くの児童生徒が1人1台端末を一斉接続しても安定的に利用できる通信環境の確保に努め、ボトルネックなど、ICT利活用の障害となる要因への対策を講じていき、児童生徒及び教職員の意欲を阻害することなく、新たな学びへの挑戦を支援することとする。また、アクセス制御による対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系ネットワークの統合や汎用のクラウドツールの積極的な活用を推進する。

1人1台端末を活用した授業実践のための教員研修等を通じて、紙とデジタルの併用の在り方や創意工夫を生かした学習活動の充実、アクセシビリティの向上等、これまでの実践とICTのベストミックスを目指した活用方法を検討し、ICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるような学習機会を創出していく。そのため、授業支援、学習支援の素材として質の高い多様なデジタル教材（ドリルや動画、音声等）やソフトウェア、サービスの活用を推進する。その上で、教育データを活用して児童生徒が主体的に学習に取り組み、才能を伸ばす個別最適な学びに繋げる取組を展開する。

また、児童生徒が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、協働的な学びの充実を目指したICTの活用方法について有効事例等の情報を共有し、教員の知見を広げる取組を展開する。

GIGA第1期に培われたICTを活用した遠隔教育について、教室での学びが困難な児童生徒の学習機会を確保するなど、対面とオンラインのベストミックスを目指した教育を推進する取組を展開する。